

津田沼支部は燃え立っている

日刊 動労千葉

81. 7. 30
No. 806

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆) 〇三三二七二〇七

「本部」反動分子への怒りをパネに「四二名が総決起にえだぎる」

津田沼支部一四二名は、燃えている。津田沼支部では、山下幸支部長をはじめ全組合員が転び屋・革マル分子嶋田誠、斎藤吉司らの権力への告訴・タレコミによって片岡支部長以下六名を獄中に奪われ、津田沼支部解体・動労千葉破壊のかつてない攻撃と困難の中で、逆に「全員が活動家となって闘う」「嶋田を絶対に許さない」「こんなことで津田沼をつぶされてたまるか」と意気天をもつく勢いで連日・連夜の闘いを展開している。権力・「本部」反動分子の動労千葉解体・破壊の目論見は、獄中の六名の完全黙秘の闘い、津田沼支部の闘いを先頭に、そしてこれをつつむ一三〇〇組合員の闘いによって一つ一つ確実に粉碎されつつある。われわれは、今、津田沼支部を先頭に、「第二の三月闘争」に勝利しつつあるのだ。獄中の仲間を即時奪還し、動労千葉を守り、「本部」反動分子を一掃し、動労大改革をかちとろう。津田沼支部に続け。

篠塚君の激励に、家族の激励に、連日の闘いの先頭に立つ

(事務分科・A君)
津田沼電車区の事務は、十一名が国労、四名が動労千葉。だけど、今度の篠塚君の不当逮捕では、国労の仲間も全員積極的に協力してくれている。二〇日の給料日には、津田沼支部へのカンパとは別に篠塚君へのカンパが、事務だけで二万二千円も集まった。

「檄」も、皆んなよろこんで書いてくれた。早速、二一日に差し入れた。

今日、(二八日)幕張電車区の事務(国労の仲間もいる)から一万円のカンパと「檄」が届いた。篠塚君の家族対策は、連日やっている。毎日、往復一四〇キロもある佐原まで行って帰ってくる。夜の九時過ぎ、国労の仲間も率先して行ってくれている。奥さん、義母さん、皆んな元氣だ。始めのうちは大変だったが、今では家族との気持ちもよく通じあえて、すべて組合にまかせてくれているので、佐原まで行くのが苦にならない。たまに、うまい夕食も御ちそうになっくる。区当局は、嶋田や「本部」派の連中の「勤務の厳正」でいろいろうるさいことを言ってきたが、今度の闘いに勝って、必ず反撃してやる。

嶋田・板倉・小野を許さない、国労の仲間と共に闘う

(检修分科・B君)

津田沼電車区の检修関係約二六〇名の内「本部」派は、革マル分子嶋田誠と板倉・小野のたつたの三名。

今、检修職場では、「この裏切り分子三人さえいなければ……」というのが、国労・動労千葉を問わず皆んなの気持だ。嶋田らが「勤務の厳正」を当局に要請して以降、三人の检修助役の他にさらに三人の助役を「嶋田のガードマン」として配

置されている。

入浴時間・出勤・退区るとき、この六人の助役が時計を見ながら一人一人チェックする。六名が不当逮捕された直後のことだが、板倉・小野を皆んなで追及していたら〇〇助役が来て「もう食事の時間だからやめろ」とか「帰りが遅くなるからやめろ」などと言ってきた。全く連中は、「本部」派のガードマンだ。

それでも嶋田・板倉・小野は、检修の皆んなに追及されるのがいやで、先週からずっと休んでいる。嶋田にいたっては、七月八日の警察の現場検証に立ち合ったにもかかわらず、いまだ出勤していない。おれたち检修は、この三人の裏切り分子を絶対に許さない。

「第二の三月闘争」勝利へ津田沼支部に続け!

津田沼支部は、第二、第三の執行部を確立し、「ハイ・イエス・OK」を合言葉に全員が一丸となって燃えている。連日、組合員の三分の一近くが差し入れに、六名の仲間の家族対策に、激励宣伝行動に、そして泊り込み動員に闘い抜いている。権力・「本部」反動分子一体となった動労千葉破壊攻撃との闘いは、「第二の三月闘争」として燃える津田沼支部を先頭に、一三〇〇組合員一丸となって勝利しよう。



獄中の仲間の英雄的たたかいにこたえ、宣伝カーによる激闘行動にも一段と熱がはいり。(千葉事務所)